

計画骨子案

基本理念			寄り添い 分かち合い 子どもすくすく みんなにここにこ ～子どもの輝き 子育ての喜びがあふれるまち かすが～		
ニーズ調査結果等から見た現状、課題など			基本目標	小目標	
- 気軽に相談できる人や場所がない親の割合が増加（前回〈未就学児〉3.4%、〈小学生〉7.2%→今回〈未就学児〉5.4%、〈小学生〉9.3%） - 子どもを叱りすぎていると悩む保護者（〈未就学児〉23.3%、〈小学生〉14.7%） - 子どもとの接し方に自信が持てないと悩む保護者（〈未就学児〉11.0%） - 家族で協力して子育てしていない割合（〈小学生〉14.6%） - 本市の子どもが学校教育を通じて生きる力を育み、健やかに成長していると感じている市民の割合（春日市まちづくりに関するアンケート調査（77.2%）） - 子育てを楽しんでいる親の割合がほぼ9割いる（〈未就学児〉88.3%、〈小学生〉88.2%）一方で、育児疲れの親が存在			1 子どもと親が共に成長し、自立する	1．親が自立し、自己肯定感を持ちながら子どもと向き合う	
				2．自らの人生を切り開くための「生きる力」を獲得する	
				3．子どもと親の心身の健康を確保する	
ニーズ調査結果等から見た現状、課題など			基本目標	小目標	
- 子どもの発達、気になる情緒や行動に関することで悩んでいるが、誰にも相談していない保護者は増加傾向（〈未就学児〉前回3.4%→今回7.6%） - 子どもの障がいに関することに悩む保護者（〈未就学児〉2.4%、〈小学生〉4.2%） - 子育てでストレスを感じていて、子どもに対して虐待の傾向があると自覚し、かつ悩んでいる保護者（〈未就学児〉2.7%） - 子育てに不安や負担を感じる親の割合は改善傾向に転じているとは言えない（特に未就学児の保護者）（前回〈未就学児〉8.4%、〈小学生〉10.5%→今回〈未就学〉10.8%、〈小学生〉9.2%） - いじめを含む、子どもの友達づきあいに悩む保護者（〈未就学児〉11.1%、〈小学生〉24.8%） 「子どもの貧困解消法」成立、引き続き重点的に取り組む必要性あり - 児童扶養手当の受給資格者数は横ばい（令和元年度1,181人→5年度1,190人）			2 支援を要する子どもや家庭をみんなで支える	1．支援を要する子どもをみんなで支える	
				2．支援を要する家庭をみんなで支える	
				3．子どもの貧困問題を地域ぐるみで支える	
ニーズ調査結果等から見た現状、課題など			基本目標	小目標	
- 犯罪認知件数は長期期的には減少傾向（令和4年468件） - 交通事故発生件数は増加傾向（令和5年1,144件）※但し、若者が係わる交通事故は減少傾向 - 県内の福祉犯被害児童数は再び増加（〈小学生以下〉令和5年18人*） - 市に期待することとして「子どもを事故や犯罪から守るための対策を進める」を挙げた保護者（〈未就学児〉41.2%、〈小学生〉51.0%） - 地域の人から子どものことで声を掛けてもらうことがあると回答した保護者の割合は減少（〈小学生〉前回63.6%→今回54.8%） - 少子化や核家族化、生活様式の多様化等によって、地域の関係性は年を追うごとに弱まる傾向 [再掲]気軽に相談できる人や場所がない親の割合が増加（前回〈未就学児〉3.4%、〈小学生〉7.2%→今回〈未就学〉5.4%、〈小学生〉9.3%） 「子育てに関して気軽に相談できる先として行政機関や相談窓口を挙げた保護者は若干増加（〈未就学児〉前回9.7%→今回10.9%） 「子どもを見てもらえる親族・知人の存在」が「いずれもない」保護者（〈未就学児〉26.2%〈小学生〉31.0%）			3 地域の人々と家庭が共に寄り添う	1．安心して子育てできる安全なまちをつくる	
				2．子どもの元気な声を認めるおおらかなまちをつくる	
				3．孤立を防ぎ、気軽に相談できるまちをつくる	
* 県警ウェブサイト掲載「少年のみちびき」より。福祉犯とは、少年の心身に有害な影響を及ぼし、健全な育成を著しく阻害する犯罪のことをいいます。（例）青少年健全育成条例（いん行等）、児童買春・児童ポルノ禁止法による犯罪					
ニーズ調査結果等から見た現状、課題など			基本目標	小目標	
- 子どもと接する時間が少ないと思う母親が増加（〈小学生〉前回29.3%→今回37.2%） - 仕事や自分のやりたいことが十分にできないと感じる保護者（〈未就学児〉19.8%） - ゆったりした気分で子どもと過ごせる時間がある保護者の割合が増加（〈小学生〉前回65.6%→今回72.5%） - 子どもの食事や睡眠の取り方などの生活習慣に関する悩みが最も多い（〈未就学児〉30.0%） - 市に期待することとして、「保育サービスの費用負担軽減や児童手当など、子育てのための経済的支援を充実する」が最も多く、子育てのための経済的負担感の軽減に関するニーズが高い（〈未就学児〉79.3%、〈小学生〉61.8%） - 地域の人に期待することとして、「地区の公民館が子どもたちの居場所の1つとなるようにしてほしい」を挙げた保護者（〈小学生〉36.4%） - 市に期待することとして、「放課後児童クラブや児童センターのほかにも、子どもの放課後の居場所を増やす」を挙げた保護者（〈未就学児〉34.7%、〈小学生〉27.6%）			4 多様な生活様式に合わせた育児環境をつくる	1．仕事と生活のバランスが取れた良好な子育て環境をつくる	
				2．子育て家庭の多様なニーズに応える環境をつくる	
				3．子どもの多様なニーズに応える環境をつくる	